

《平成26年度 事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、機関支援、「サロン」、「子育てアシスト(年中児集団行動観察)」、「ペアレント・トレーニング」、普及啓発を行っている。「子育てアシスト」は機関支援の一環として実施している。

1. 相談業務

(1) 相談支援

相談の傾向としては、18 歳以上が全体のほぼ半数を占め、家族・本人からの相談が中心である。家族の相談は情報提供や生活上の困難さに対する具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。

18 歳未満では学齢期の相談が多く、不登校や学校不適應、養育環境の問題等が複雑化しているケースも多く、他機関と協同しての支援が不可欠である。

(2) 発達支援

家庭や所属機関における療育の方針や具体的な支援方法について、本人・家族及び所属機関等の支援者に対する相談を行っている。相談内容は、家庭や所属機関における行動面あるいは情緒面の問題に関するものが中心である。発達段階や障害特性に応じて、具体的な支援方法について助言を行う他、必要に応じて、所属機関での行動観察や個別支援のための調整会議も行っている。

(3) 就労支援

就労準備(千葉障害者職業センターの職業相談・評価や発達障害者支援カリキュラム等の活用、他の就労支援機関の利用等)や就職活動(ハローワークや民間求人サイト等)、就労後の定着など、一人ひとりのニーズに即した支援を行っている。今年度、9 月末までの就職者数は 13 人(内、障害者雇用枠 12 人)。主な就業先は、事務、軽作業等である

2. 機関支援

依頼に応じて、幼稚園・保育園や小学校・高校等を訪問し、「気になる子」の行動観察を行っている。園長・校長や担任から、日頃の様子についても聞き取りを行い、観察時の様子を踏まえて、対応方法や支援方針について協議を行っている。また、「気になる子」に関することだけでなく、教室の環境調整や、全体への指示の出し方等についても、必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

3. 子育てアシスト(年中児集団行動観察)

機関支援の一環として実施している。乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、

気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

昨年度の反省をふまえ、年中児の保護者向けに事業の趣旨説明と子育てミニ講座も同日に行い、結果についても全ての保護者に報告している。

今年度より幼稚園だけではなく、民間保育園協議会を通して保育園にも希望を募っている。幼稚園 6 園、保育園 2 園より希望があり、現時点で 5 園終了している。

4. サロン「しえるろっく」

対象は、発達障害の診断を受けていて、診断名を告知されている 18 歳以上（高校生は含まない）の方である。活動を通じて仲間を見つけることや、自分を表現する力と他の人を理解する力の向上を目的とし、フリートークやゲーム形式で行っている。全 8 回を予定しており、10 月末で 4 回終了している。

5. ペアレント・トレーニング

対象は 4 歳～10 歳の ADHD と診断された子どもの保護者であり、今年度は 6 名参加している。発達障害のある子ども達の行動を理解し、適切な対応について体験的に学び、よりよい親子関係作りと子どもの適応行動の増加を目的としている。全 8 セッションを予定しており、9 月 30 日から開始している。

6. 普及啓発

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。具体的には、一般市民や関係者を対象とした講演会を開催し、発達障害の理解浸透を図っている。また、発達障害の理解や対応に関すること、就労支援に関することなど、関係機関が開催する研修会などに支援員を講師として派遣している。